

人 チーム 制度

変則的な育児短時間勤務の取得

～会社や上司、同僚の理解があったからできた
育児・家事の分担～



今回ご紹介するのは東洋技研コンサルタント(株)で橋梁設計の仕事に携わる鎌谷さん。2004年に奥さんとお結婚され、現在、10歳と7歳の2人のお子さんを育てていらっしゃいます。

これまでの経歴を簡単に教えてください。

1992年に工学部土木工学科を卒業後、東洋技研コンサルタント株式会社に入社、入社当時より橋梁設計部署に所属し、25年間主に橋梁設計を行っています。2007年に長女を授かり、2009年7月から長女3歳の誕生日まで育児短時間勤務を取りました。

育児短時間勤務を取られたきっかけは?

長女が1歳すぎになるまでは、妻が育児休暇を取っていたので、育児・家事のほとんどは妻が行っていました。妻の育児休暇後から生活が大きく変わりました。妻はフルタイム勤務の正社員で勤務地が福知山市、私の勤務地が大阪市内、当時は二人の勤務先の間地点の篠山市で暮らしていました。妻は高速道路を使ったマイカー通勤で1時間弱かかっていた。1歳の娘を後部座席のチャイルドシートに座らせての毎日の通勤、途中で娘の機嫌が悪くても高速道路だと停車もできません。子供に気を取られあわや事故というようなこともあったようです。このままではだめだと思い、福知山に住む義父の調子が良くないこともあって、妻の勤務地近くの福知山へ住居を移転しようと決めました。私自身は転居と同時に退職し、福知山近辺での再就職を考えました。上司へ退職の話をしたところ、会社を辞めずに長距離通勤となるので変則的な育児短時間勤務を取ることを勧めていただきました。また、同僚にも育児短時間勤務を取ることに理解いただけたので、会社を辞めず仕事を続けることができました。

プロフィール

氏名 : 鎌谷 太郎
所属 : 技術第4部
勤続年数 : 25年
居住地 : 京都府福知山市
家族構成 : 妻/長女(小4)
/長男(小1)
勤務状況 : 育児短時間勤務(時短)
2009年7月から約1年

経歴

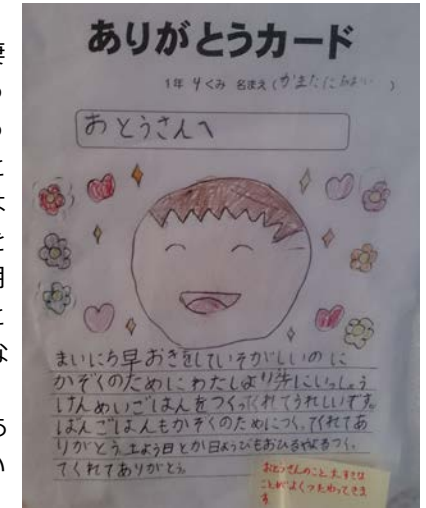
1992年4月	東洋技研コンサルタント株式会社に入社
2004年11月	結婚
2007年11月	長女誕生
2007年11月 -2009年3月	妻が育児休暇取得 2009.4から職場復帰
2009年7月 -2010年11月	住居移転 育児短時間勤務取得 (長女3歳まで)
2010年6月	長男誕生

変則的な育児短時間勤務とは、どういった勤務ですか?

片道2時間超の長距離通勤のため、通常の短時間勤務を取っても意味がないので、フルタイムの70%出勤(出勤3.5日/週)という短時間勤務を取らせてもらいました。妻の仕事では早出や残業、研修会等の出張があります。また、子供が小さいうちは急な発熱などで保育園を休む日も時々ありました。このため、妻の超勤予定や子供の状況により、私が半日休暇や1日休暇を時短の範囲内(1.5日/週)で取っていました。2人の予定が合わないときは、ファミリーサポートサービスを利用していました。

家事・育児の分担はどうされていますか?

家事の方は、妻の職場復帰の2009年4月から今も続けているのですが、毎日の朝食と夕食作り、妻の弁当作り(残り物を詰める程度ですが…)をやっています。保育園のころは長期休暇がなくてよかったのですが、小学生となった今では、長期休暇のときはお昼の弁当作りもしています。長女のお弁当は女の子なので、ささやかですが色合いやかわいさを工夫して作っています。一番大変なのは夏休み。朝起きて、朝食とお弁当と夕食を作ってから出勤となるので、この時期はいつもより20分は早く起きないといけないです。やっていた嬉しかったことは、長女が小1のときに「お父さんへ」と書いてくれたありがとうカード。ごはんを作ることしか書かれていませんが日々の大変さが報われました。



現在の育児の方は、通常勤務なので、妻の超勤時などは有給休暇とファミサポを利用して何とかやっています。平日は妻にまかせっきりになっているので、できるかぎり土日は子供の習いごとの送迎や、宿題を一緒にしたりしています。



最後に

私が家事や育児を手伝っていてこれからも頑張ろうと思うことは、家族からの「ありがとう」という感謝の言葉があるからです。私は妻へ照れくさくてなかなか言えないのですが、いつも当たり前のようにしてもらっていることでも、言葉で感謝の気持ちを伝えることが大事だと思いました。